インドネシアのホラー映画に見る恐怖の起源
『ポチョン』と『スンデルボロンの伝説』から

西 芳実

はじめに

2020年、インドネシアではホラー映画の社会的認知が高まって国民文化を代表する地位を得たと話題になった。2020年インドネシア映画祭は、ホラー映画『呪われた地の女』[1)]（2019年、ジョコ・アンワル監督）に作品賞と監督賞を含む６部門で最優秀賞を与えた。受賞に至らなかったものを含めて12部門でノミネートされ、インドネシア映画祭で史上最多のノミネート数となった。また、同作品は2021年オスカー賞のインドネシア代表にも選ばれた。

インドネシアのホラー映画は1970年代から1980年代にジャンルとして成立した。この時期に、『墓での出産』（Beranak Dalam Kubur、1971年）、『南海の女王』（Ratu Pantai Selatan、1980年）、『悪魔の奴隷』（Pengabdi Setan、1980年）、『スンデルボロン』（Sundel Bolong、1981年）、『魔の湖』（Telaga Angker、1984年）、『サンテット』（Santet、1988年）といったホラー映画が作られ、ジャカルタで20万～30万人の観客を集めた。これらの作品はテレビでも繰り返し放映され、今ではインドネシアのホラー映画の古典として大衆文化の一部をなしている。

インドネシアでは1990年代後半に国産映画産業が著しく衰退したが、1998年政変（後述）とその後の民主化を経て再興し、現在では年間100本前後が制作・公開されている。ホラー映画は低予算で制作できて一定の観客を見込めるジャンルであり、毎年の制作本数の３割前後を占めている。ただし、ホラー映画は、見終わって映画館の外に出たとたんに内容を忘れてしまうような大衆向けの低俗な娯楽映画と扱われ、インドネシアではこれまでほとんど作品批評の対象にされてこなかった。インドネシア映画祭にノミネートされたとしても美術や音楽や撮影の部門での受賞にとどまっていた。その点で、作品賞と監督賞を受賞した『呪われた地の女』はホラー映画の社会的認知を高めたと評された。

この受賞により『呪われた地の女』をインドネシアの最初の本格的なホラー映画と言う人もいるようだが、上述のようにインドネシアでは1970年代からホラー映画を通じて様々な表現の試みがされてきており、『呪われた地の女』はそれらの試みの延長上に位置付けて捉えられるべきだろう。

本稿では、1998年以降にインドネシアでどのようなホラー映画が作られ、それを多くの観客が見たことにどのような意味があるかを考えてみたい。対象を1998年以降の作品とするのは、現在の隆盛に至るインドネシア映画の再興が1998年以降であることに加え、1998年政変を境にインドネシアの社会全体が大きく変わったことによる。ホラー映画は社会が抱く暴力や恐怖の記憶と密接に結びついていることから、1998年政変によって強権主義的な統治に終止符が打たれ、過去の暴力や恐怖の経験について人々が語りやすい状況になって以降のホラー映画がどのような題材をどのように表現しているか（していないか）を見るためである。

インドネシアには暴力に関する集合的な記憶がいくつかある。それらのうち特に大きなものが、1965年の「9月30日事件」から1968年のスハルト政権成立までの間に社会を覆った暴力の記憶である[2)]。10月１日未明に国軍兵士によるクーデター未遂事件が起こり、鎮圧の指揮を執ったスハルトがスカルノにかわって大統領の座に就いた。スハルト政権は、クーデター未遂事件の背後に国家転覆を企てた共産主義者の陰謀があるとして、共産党員およびその支持者と

1）表１に掲載されている作品は本文で原題を表記していない。

2）９月30日事件の経緯や犠牲者たちの経験、国際社会の反応などについては、倉沢愛子による『インドネシア大虐殺――二つのクーデターと史上最大級の惨劇』（中央公論新社、2020年）、『楽園の島と忘れられたジェノサイド――バリに眠る狂気の記憶をめぐって』（千倉書房、2020年）、『9・30 世界を震撼させた日――インドネシア政変の真相と波紋』（岩波書店、2014年）に詳しい。

見られた人々への大弾圧が行われた。弾圧には国軍だけでなく一般民衆も加わり、顔見知りどうしで密告や殺し合いが行われた。

もう１つは1998年５月のジャカルタ暴動の記憶である。長期化するスハルト政権への国民の不満が高まり、学生デモが一般市民を巻き込んだ反政府デモに広がっていった。この過程でデモ参加者の一部が暴徒化し、ジャカルタで商店街やショッピングモールを対象にした大規模な略奪や放火が行われ、一般市民に犠牲者が出た。華人系住民に被害が集中し、国外に一時避難せざるをえないほどだった。

これらの経験は、インドネシア人が集団で別のインドネシア人を襲って殺したという集団的暴力の記憶であり、インドネシア社会の傷となってきた。政府は略奪や虐殺が行われたことを認めず、あるいは騒乱の発生は不可抗力によるものと位置づけた[3)]。略奪や虐殺を扇動した勢力がいたことは公然の秘密にとどまり、虐殺や暴動の犠牲になった人々はそうした説明に納得しようもなかった。しかし国家（政府）に敵対すると厳しい弾圧の対象になってきたという暴力と恐怖の経験から、そして実際の略奪や殺害における加害者と被害者およびそれぞれの関係者が今も同じ社会で暮らしているという状況から、今なお過去の経験は公の場で語られにくい状況があり、犠牲者が適切に弔われず、したがって社会の傷も癒やされないままになってきた。加害者側の人々も、国全体を揺るがす大きな事件の背後に隠されている真実から目を背けているという直観から不安を抱いている。

1998年政変後のインドネシアでは、過去の経験をすべて白日の下に曝すことにはまだ抵抗が大きいものの、自分たちが過去に経験したことを傷の部分を含めて語ることで社会で共有しようとする試みも見られるようになっている。映画は現実社会について語りにくいことをフィクションに置き換えて語ることに長けたメディアである。とりわけホラー映画は、悪霊や悪魔の仕業にすることで登場人物に恐怖を与えることから、隠喩として社会の傷を織り込むことで社会の傷を間接的に共有することができる[4)]。

本稿では、1965年政変と1998年政変に関わる集団的暴力の経験を明示的に題材としたホラー映画を紹介する。

１．インドネシアのホラー映画の20年

1998年以降のインドネシア映画におけるホラー映画の状況を概観しておこう。表１は、1999年から2019年までにインドネシア国内で公開されたインドネシア映画のなかで100万人以上の観客を動員した作品の一覧である。

2001年の『ジュランクン』[5)] を皮切りに、2009年までの９年間で22作品中７作品がホラー映画であり、ほぼ毎年のようにホラー映画が多くの観客を集めている。『ジュランクン』は、心霊スポット探しを楽しむジャカルタの若者たちが西ジャワの村を訪れ、封印されていた霊を知らずに蘇らせてしまったことから起こる顛末を描いた。ミュージック・ビデオや広告映像で実績を積んでいたリザル・マントファニ監督が、ロック音楽やスピード感のある画面展開を駆使した演出によってホラー映画の新しい表現に挑戦した。霊の姿が画面に明示されないことが怖いと評判を呼び、劇場公開は３か月間に及び、2002年のバンドン映画祭で特殊効果賞を受賞した。

『ジュランクン』以降、ジュランクン、クンティラナック[6)]、ポチョン[7)]のような、インドネシアに古く

3）1965年政変についての政府の公式見解は、国策映画『インドネシア共産党９月30日運動の裏切り』（1983年）を通じて、恐怖の経験として人々に繰り返し刷り込まれてきた。西（2021）の第１部（特に第２章）を参照。

4）ホラー映画の映画を通じて「国民的悲劇」を語り直そうとする試みについて、西（2021）の第４部を参照。

5）ジュランクンもしくはジャイランクンは降霊の依代とする人形で、ヤシガラ椀を頭とする。降霊の儀礼を指すこともある。唐から元まで443年間生きたと伝えられる中国・福建の莱籃公（チャイランコン）に由来するという説がある。

6）クンティラナック（kuntilanak）は妊娠中や出産時に不慮の死を遂げた女性の霊で、長髪で白い服に身を包んでいる。腹部に穴が開いていて内臓が見える、人間を襲って血を吸う、子どもを連れ去る、大きな木に住む、鏡から姿を現すなど、その特徴は地域によって異なる。スンデルボロンと呼ばれることもある。スンデルボロンについては後述する。2006年に制作・公開された『クンティラナック』は、日本では『呪歌 JUKA』のタイトルでDVD販売された。

7）ポチョン（pocong）は埋葬用の白い布に包まれた遺体のこと。インドネシアのイスラム教徒の埋葬では、遺体を清めた後に全身を白い布で包み、地面に掘った穴に安置した後、頭部の紐を緩めてから土を被せる。紐を緩めるのを忘れて埋葬すると、遺体はポチョンの姿のまま地上に姿を現すとされる。映画では、手足は白い布に包まれたまま、顔だけ布から出した姿になることが多い。また、映画ではポチョンが飛び跳ねるように移動するが、ポチョンは空中を浮遊するため、飛び跳ねているのは本当のポチョンではなく人間が変装しているものである。

表１　観客動員数が100万人を超えたインドネシア映画（1999年～2019年）

制作年	タイトル	原題	監督	観客動員数（人）	ジャンル
1999	シェリナの大冒険*	Petualangan Sherina	Riri Riza	1,250,000	ミュージカル
2001	ジュランクン	Jelangkung	Rizal Mantovani	1,150,000	ホラー
2002	ビューティフル・デイズ*	Ada Apa dengan Cinta	Rudi Soedjarwo	2,170,390	ドラマ, ヤングアダルト
	ジュランクンの一突き	Tusuk Jelangkung	Dimas Djayadiningrat	1,300,000	ホラー
2003	エッフェル塔に恋したの	Eiffel I'm in Love	Nasri Cheppy	2,043,404	ヤングアダルト
2006	呪歌 JUKA*	Kuntilanak	Rizal Mantovani	1,200,000	ホラー
	ポチョン２	Pocong 2	Rudi Soedjarwo	1,200,000	ホラー
	ハート	Heart	Hanny R Saputra	1,100,000	ドラマ
2007	結婚する！	Get Married	Hanung Bramantyo	1,389,454	ドラマ, コメディ
	ナガボナール・パート２*	Nagabonar Jadi 2	Deddy Mizwar	1,246,174	ドラマ, コメディ
	カサブランカ・トンネル	Terowongan Casablanca	Nanang Istiabudi	1,200,000	ホラー
	クイッキー・エクスプレス	Quickie Express	Dimas Djayadiningrat	1,000,000	コメディ
2008	虹の兵士たち*	Laskar Pelangi	Riri Riza	4,631,841	ドラマ
	愛の章	Ayat-ayat Cinta	Hanung Bramantyo	3,581,947	ドラマ
	娘のポチョンの紐	Tali Pocong Perawan	Arie Azis	1,082,081	ホラー
	XL：特大	XL: Extra Large	Monty Tiwa	1,032,160	コメディ
2009	愛が祝福される時	Ketika Cinta Bertasbih	Chaerul Umam	3,100,906	ドラマ
	愛が祝福される時２	Ketika Cinta Bertasbih 2	Chaerul Umam	2,003,121	ドラマ
	夢追いかけて*	Sang Pemimpi	Riri Riza	1,742,242	ドラマ
	ぼくの胸のガルーダ	Garuda Di Dadaku	Ifa Isfansyah	1,371,131	ドラマ, 子ども
	結婚する！２	Get Married 2	Hanung Bramantyo	1,199,161	ドラマ, コメディ
	花嫁の滝	Air Terjun Pengantin	Rizal Mantovani	1,060,058	ホラー
2010	光照らす人	Sang Pencerah	Hanung Bramantyo	1,206,000	ドラマ
2012	ハビビとアイヌン*	Habibie & Ainun	Faozan Rizal	4,488,889	ドラマ
	5 cm*	5 cm	Rizal Mantovani	2,392,210	冒険, ドラマ
	ザ・レイド*	The Raid	Gareth H. Evans	1,844,817	アクション, サスペンス
2013	ファンデルヴェイク号の沈没	Tenggelamnya Kapal Van Der Wijck	Sunil Soraya	1,724,110	ドラマ
	ヨーロッパの空に輝く99の光	99 Cahaya di Langit Eropa	Guntur Soeharjanto	1,189,709	ドラマ
2014	コミック８	Comic 8	Anggy Umbara	1,624,067	アクション, コメディ
	ザ・レイド GOKUDO*	The Raid 2: Berandal	Gareth H Evans	1,434,272	アクション, サスペンス
2015	望まれない天国	Surga yang Tak Dirindukan	Kuntz Agus	1,523,570	ドラマ
	シングル	Single	Raditya Dika	1,318,238	ドラマ, コメディ
	コミック８：カジノ王１	Comic 8: Casino Kings part 1	Anggy Umbara	1,211,820	アクション, コメディ
2016	ワルコップDKI再生	Warkop DKI Reborn: Jangrik Boss! Part 1	Anggy Umbara	6,858,616	コメディ
	再会の時～ビューティフル・デイズ２～*	Ada Apa Dengan Cinta 2	Riri Riza	3,665,509	ドラマ
	うちのおバカ社長*	My Stupid Boss	Upi	3,052,657	ドラマ, コメディ
	HANGOUT ハングアウト*	Hangout	Raditya Dika	2,452,657	コメディ , サスペンス
	ルディ・ハビビ	(rudy habibie)	Hanung Bramantyo	2,008,846	ドラマ
	ぽろぽろのコアラ	Koala Kumal	Raditya Dika	1,863,541	コメディ
	コミック８：カジノ王２	Comic 8: Casino Kings Part 2	Anggy Umbara	1,835,644	アクション, コメディ
	隣のお店を確かめろ	Cek Toko Sebelah	Ernest Prakasa	1,601,908	コメディ
	3万8000フィート上空から愛してる	ILY from 38.000 Ft	Asep Kusdinar	1,574,576	ドラマ
	ロンドン・ラブストーリー	London Love Story	Asep Kusdinar	1,124,876	ドラマ
2017	悪魔の奴隷*	Pengabdi Setan	Joko Anwar	4,206,103	ホラー
	ワルコップDKI再生２	Warkop DKI Reborn: Jangkrik Boss Part 2	Anggy Umbara	4,083,190	コメディ

制作年	タイトル	原題	監督	観客動員数（人）	ジャンル
2017	愛の章２	Ayat-ayat Cinta 2	Guntur Soeharjanto	2,840,159	ドラマ
	ダヌル：私は幽霊が見える	Danur: I Can See Ghosts	Awi Suryadi	2,736,157	ホラー
	ジャイランクン	Jailangkung	Jose Poernomo, Rizal Mantovani	2,550,271	ホラー
	通信困難	Susah Sinyal	Ernest Prakasa	2,172,512	ドラマ
	望まれない天国２	Surga Yang Tak Dirindukan 2	Hanung Bramantyo	1,637,472	ドラマ
	サードアイ*	Mata Batin	Rocky Soraya	1,282,557	ホラー
	人形２	The Doll 2	Rocky Soraya	1,226,864	ホラー
	スタラへのラブレター	Surat Cinta untuk Starla the Movie	Rudi Aryanto	1,218,317	ドラマ
	スイート２０	Sweet 20	Ody C. Harahap	1,044,045	コメディ
2018	ディラン１９９０	Dilan 1990	Fajar Bustomi, Pidi Baiq	6,315,664	ドラマ
	よみがえったスザンナ*	Suzzanna: Bernapas dalam Kubur	Rocky Soraya, Anggy Umbara	3,329,640	ホラー
	ダヌル２：マッダ	Danur 2: Maddah	Awi Suryadi	2,572,672	ホラー
	ドゥル	Si Doel the Movie	Rano Karno	1,757,653	ドラマ
	アシ	Asih	Awi Suryadi	1,714,798	ホラー
	＃友達だけど結婚する	#Teman tapi Menikah	Rako Prijanto	1,655,829	ドラマ
	ウィロ・サブレン：竜頭斧の勇者	Wiro Sableng: Pendekar Kapak Maut Naga Geni 212	Angga Dwimas Sasongko	1,552,014	アクション
	ジャイランクン２	Jailangkung 2	Rizal Mantovani, Jose Poernomo	1,498,635	ホラー
	アホックと呼ばれた男	A Man Called Ahok	Putrama Tuta	1,465,145	ドラマ
	サブリナ	Sabrina	Rocky Soraya	1,337,510	ホラー
	クンティラナック	Kuntilanak	Rizal Mantovani	1,236,000	ホラー
	悪魔に呼ばれる前に*	Sebelum Iblis Menjemput	Timo Tjahjanto	1,122,187	ホラー
	エッフェル塔に恋したの２	Eiffel… I'm In Love 2	Rizal Mantovani	1,008,392	ドラマ
2019	ディラン１９９１	Dilan 1991	Fajar Bustomi, Pidi Baiq	5,253,411	ドラマ
	二本の蒼い線	Dua Garis Biru	Gina S. Noer	2,538,473	ドラマ，ヤングアダルト
	ダヌル３：スニャルリ	Danur 3: Sunyaruri	Awi Suryadi	2,411,036	ホラー
	不完全：仕事に愛に体重に	Imperfect: Karier, Cinta & Timbangan	Ernest Prakasa	2,373,615	ドラマ
	ハビビとアイヌン３	Habibie & Ainun 3	Hanung Bramantyo	2,185,697	ドラマ
	うちのおバカ社長２	My Stupid Boss 2	Upi	1,876,052	ドラマ，コメディ
	呪われた地の女	Perempuan Tanah Jahanam	Joko Anwar	1,795,068	ホラー
	クンティラナック２	Kuntilanak 2	Rizal Mantovani	1,726,570	ホラー
	マツの木の家族*	Keluarga Cemara	Yandy Laurens	1,701,498	ドラマ
	グンダラ ライズ・オブ・ヒーロー *	Gundala: Negeri Ini Butuh Patriot	Joko Anwar	1,699,433	アクション，ドラマ
	人間の大地	Bumi Manusia	Hanung Bramantyo	1,316,583	ドラマ
	引退ギャング	Preman Pensiun	Aris Nugraha	1,147,469	ドラマ，コメディ
	成金	Orang Kaya Baru	Ody C. Harahap	1,118,738	ドラマ，コメディ
	ゴースト・ライター	Ghost Writer	Bene Dion Rajagukguk	1,116,676	コメディ，ホラー
	ヨイス・ベン２	Yowis Ben 2	Fajar Nugros, Bayu Skak	1,031,856	ドラマ，コメディ

典拠：http://filmindonesia.or.id/より筆者作成。

注

※１ ホラー映画にはグレーの網掛けを施した。

※２ タイトル欄の＊印は日本公開作品（映画祭上映、劇場公開、DVD販売、インターネット配信のいずれか）を示す。邦題は日本公開時のものに従い、日本未公開のものは原題から仮訳した。

※３ 観客動員数が100万人を超える映画がない年は記載していない。

からある幽霊や心霊にまつわる伝承を取り込んだホラー映画が多く作られた。都会で生まれ育った中上流階層の若者たちが、偶然または好奇心や無知や不道徳に起因する行為によって禁忌に触れて、霊や化け物を覚醒させて超常現象に見舞われ、霊の来歴を知るという物語の型が作られていった。

ホラー映画の舞台には、都市伝説を持つ実在の土地[8]のほかに、学校や病院のような閉鎖された公共空間や、都市の外にある森、湖、島、古い邸宅が選ばれることが多い。主人公たちは来訪者あるいは闖入者としてその場所を訪れ、地元社会の事情をよく知らないまま怪奇現象に巻き込まれ、それから逃れようとする過程で霊や化け物の来歴を知っていく。

ホラー映画では、霊や化け物は集団的な暴力の犠牲者であり、コミュニティの秩序や安寧を脅かすとみなされてコミュニティの人々によって殺された者[9]や、邪な欲望を向けられた女性が凌辱され、社会的に認知された婚姻関係の外で妊娠したために社会から不道徳者扱いされ、尊厳を失った女性が自殺したり邪魔に思った男性から殺害されたりした者である。

2010年から2016年までの7年間は他ジャンルの勢いに押されてホラー映画は目立たなくなるが、2017年3月に公開された『ダヌル：私は幽霊が見える』以降、再びホラー映画の観客動員数が増え、2019年までの38作品中14作品がホラー映画となった。

1970年代から1980年代に作られたホラー映画のリメイク[10]やオマージュ作品[11]に加え、ホラー小説の映画化[12]や新作のホラー作品[13]が作られ、ヒットすると続編が作られてそれがさらにヒットするという流れが生まれている。2000年代のホラー映画のリメイクも盛んになっている[14]。冒頭で触れた『呪われた地の女』はこのようなホラー映画の活況の中で登場した。

次節以降では、ルディ・スジャルウォ監督の『ポチョン』、『ポチョン2』とハヌン・ブラマンティヨ監督の『スンデルボロンの伝説』(Legenda Sundel Bolong、2007年)を取り上げる。これらの作品は、1965年政変と1998年政変に関わる集団的暴力の経験を物語に取り込み、ホラーの力を用いることによって社会の傷を問い直し、それと向き合うことを誘うことに挑戦している。

2. 恨みは死なない――『ポチョン』『ポチョン2』

『ポチョン』――1998年ジャカルタ暴動

インドネシアでよく知られたお化けの1つであるポチョンをタイトルにしたこの作品は、1998年5月13～15日のジャカルタ暴動で殺害された一家の話である。2006年に制作され、同年中の公開が予定されていたが、インドネシア映画検閲局(LSF)の検閲を通らずにお蔵入りになった。以下に記す作品の内容は、監督やプロデューサーの発言や、続編として公開された作品の情報から再構成したものである。

ジャカルタで米穀や日用雑貨を扱う商店を営むスゲン一家は、スゲン夫妻、息子のウィスヌ、娘のラフマの4人家族である。雇われ運転手のルスタムは、スゲン一家に解雇されたことを逆恨みして、1998年5月のジャカルタ暴動の際に暴徒をスゲン一家の住居兼商店に誘導する。ラフマは暴徒に強姦され、スゲン夫妻とともに家ごと焼き殺される。ウィスヌは一命をとりとめるが、目の前で暴徒に襲われる妹を助けることができなかったという思いに苛まれる。

妹を埋葬する際、ウィスヌは何ものかのささやき[15]

8) たとえば『カサブランカ・トンネル』。

9) 『ジュランクン』で若者たちが覚醒させてしまう霊は、村に災いをもたらす霊がとりついているとして、1938年に村人総出の儀礼を経て村人たちに殺された少年の霊である。

10) ジョコ・アンワル監督の『悪魔の奴隷』(2017年)は、1987年のゴシック・ホラーの名作『悪魔の奴隷』(邦題は『夜霧のジョギジョギ』、シスウォロ・ゴータマ監督)のリメイクである。

11) 『スザンナ：墓で息をする』(邦題は『よみがえったスザンナ』)。西(2021)の第3部第4章を参照。

12) 『ダヌル：私は幽霊たちが見える』、『ダヌル2：マッダ』、『ダヌル3：スニャルリ』はリサ・サラスワティの幼少期を描いた自伝的小説を原作とする。リサは幼少時から霊の姿が見え、霊と交信できたと語っている。『ダヌル……』は日本軍占領期に死んだ3人のオランダ人少年の霊と少女が友情をかわす物語である。『ダヌル』シリーズの登場人物のアシを主人公にした『アシ』(2018年)も作られている。

13) クンティラナックやポチョンなどの伝統的な霊や化け物が登場しないホラー映画に、『サードアイ』(2017年)と続編の『サードアイ2』(2019年)、『人形』(2016年)と続編の『人形2』(2017年)、『サブリナ』(2018年)、『悪魔に呼ばれる前に』(2018年)と続編の『悪魔に呼ばれる前に2』(2020年)などがある。

14) ジュランクンものとして『ジャイランクン』(2017年)と『ジャイランクン2』(2018年)、クンティラナックものとして『クンティラナック』(2018年)と『クンティラナック2』(2019年)が作られてそれぞれシリーズ化している。

15) 映画検閲局局長のティティ・サイドによれば「遺体を包む白い布の綴じ口を開かないようにしておけば、ラフマの遺体がお前の恨みを晴らすだろう」というささやきだった。以下の検閲に関する記述はEvieta(2006)による。

に導かれるように、遺体をくるんだ白い布の頭の部分の紐を緩めなかった。ウィスヌはポチョンの姿をした妹の幽霊をたびたび目撃するようになり、ルスタムに対する恨みの心を募らせてしだいに正気を失っていく[16]。ウィスヌはルスタムを探し出し、自分の家族が受けたのと同じ恐怖をルスタムの家族に与える。

『ポチョン』は映画検閲局によって公開が不許可とされた。10月26日の公開予定日のわずか一か月前の９月28日、閲覧、輸出、公開のどれも完全に認めないという決定が発表された。関係者の誰もが検閲に通らないとは考えていなかったという。

公開の完全不許可は映画検閲局にとってきわめて重い決定であり、検閲の詳細をメディアに説明している。映画検閲局が挙げた理由は９つあった。強姦シーンが品位の規範を満たさなかったこと、暴力が突出し、残酷で犯罪的なシーンが全体の50%以上を占めているために善良さが邪悪さに負かされる印象を与えることなどである。

検閲は三段階あり、通常は２日間で行われる。第一段階で問題が指摘されると第二段階で検討され、そこで許可が得られなければ最終段階として宗教家、文化人、映画人、国軍や国家情報庁の担当者による検討が行われる。そこでも公開に問題があると判断されると全体会議にかけられ、最終的な判断が下される。

ティティ・サイド映画検閲局長（当時）は、この作品の制作・宣伝費は300万ルピアで、公開不許可にすると制作者に経済的な損失を与えることは十分に承知しており、公開不許可の重さは認識していたが、それでも不許可の判断をせざるをえなかったという。ティティは、『ポチョン』は作品としての質は問題なく、撮影、脚本、演技、会話のいずれにおいても公開のための水準をクリアしていたが、1998年５月のジャカルタ暴動がもたらした恨みや古傷を再燃させる可能性が懸念されたと語った。

ジャカルタ暴動では華人が経営する商店が襲撃の対象となり、華人女性が集団強姦の対象となった。『ポチョン』ではスゲン一家の民族性は明示されていないが、一家の身に起こったことはインドネシア華人が被った悲劇を思い起こさせる描き方がされている。

ただし、『ポチョン』は恐怖の源泉を民族間の対立と描くことは避けている。悲劇の始まりはルスタムの逆恨みだが、その始まりは、スゲン一家の商売品である米穀がなくなっていることに気付いたスゲンがルスタムの仕業と考えてルスタムを解雇したことにあった。収入がなくなって家族を養えなくなったルスタムは自分に濡れ衣を着せたスゲン一家を恨んだ。終盤で、米穀を盗んでいたのはスゲン一家の使用人の女性で、ルスタムへの疑いは誤解にもとづくものだったことが明らかになる。ルスタムが解雇され、スゲン一家が暴徒に襲われ、自分の死を受け入れられないラフマの幽霊がウィスヌを惑わせ、ウィスヌがルスタムとその家族に復讐するという暴力の連鎖を描くとともに、それが誤解から始まっていることを示している。

『ポチョン２』――『ポチョン』を語り直す

『ポチョン』の監督は『ビューティフル・デイズ』(2002年、インドネシア映画祭最優秀監督賞）や『いきなりダンドゥット』(2006年）で実績を積んでいたルディ・スジャルオ、脚本はモンティ・ティワ、制作会社はテレビドラマ・映画制作大手のシネマートである。制作会社とルディ・スジャルウォは続編の『ポチョン２』を制作・公開して制作費の回収をはかった。『ポチョン２』の内容から『ポチョン』の設定や映像を垣間見ることができる。

『ポチョン２』は、夜の野原で女性がウィスヌに襲われている場面から始まる。ウィスヌは「ラフマの痛みをお前も味わえ」と言いながら女性を強姦する。半裸になったウィスヌの背中に漢字の入れ墨が見える。ウィスヌは女性を白い布に包む。包みの中から声が聞こえ、女性が生きていることがわかるが、ウィスヌは気にせず女性を穴に埋める。埋め終わったところにルスタムが現れ、ウィスヌは背後から頭を殴られて倒れて死ぬ。

それから４年。大学の哲学科で助手をしているマヤは、１年前に両親が亡くなり、高校３年生の妹アンディンと２人で暮らしている。アンディンはマヤが婚約者のアダムにかまけて自分にかまってくれないと感じており、そのことについてマヤに不満をぶつける。

マヤはアンディンとの生活を立て直すため、新聞

16）ティティによれば、他人が自分について話しているのを耳にしたウィスヌがフォークでその人物を刺す場面があった。

広告で見つけたジャカルタ郊外のアパートメントの８階に引っ越す。破格の安さで借りることができたアパートメントには、いつも突然姿をあらわす中年男性の管理人スラメットと、同じ階に住む若い男性のほかに人影はなく、午後３時に必ず停電でエレベーターが止まるなど不審な点が多いが、マヤはジャカルタの金持ちが投資用に買うので住んでいる人は少ないという管理人の説明を信じている。

ある晩、些細な行き違いからマヤに反発したアンディンはマヤが寝ている間に外出する。女友達と酒を飲んで深夜に帰宅したアンディンは、アパートメントの階段でポチョンに脅かされたと言ってマヤに助けを求めるが、哲学を専攻するマヤはポチョンを信じず、アンディンがマヤの気を引くためにポチョンの話をしたと考えてアンディンを信じない。アンディンはその後も何回かポチョンに悩まされ、発熱して学校を休むようになる。

マヤもポチョンを目撃するようになり、半信半疑ながら、学生の勧めでドゥクン（祈祷師）[17] の意見を求める。ドゥクンは、ポチョンは悪さをしないので気にする必要はないが、アンディンとマヤは別の邪悪なものに狙われている可能性があると言い、その原因を探るため、マヤに異界の存在が見える第三の目を授ける。

マヤは他人を見たときにその人にゆかりがある人物の霊が憑りついている様子が見えるようになる。マヤは哲学科のドリス博士にポチョンについて相談する。ドリスは、肉体が死ぬと精神も死ぬのだろうかとマヤに問い、15世紀のデマック王国で王に処刑された村長が人々に警告するために姿を現したのが最初のポチョンだとする研究書の記述を紹介する。

帰宅したマヤは、血に染まった高校の制服の幻影を見て、アンディンが通う高校に原因を探りに行く。その高校の女子生徒のラフマと家族が焼き殺されていたことを知り、ラフマの家の跡地を訪ねる。建物は焼け落ちたまま放置されている。建物を管理している元使用人の話から、一家が襲われたのは４年前の６月14日の午後３時であること、ラフマの兄ウィスヌは一命をとりとめたが正気を失い、行方不明であることを知る。一家の写真を見ると、父スゲンはマヤが住んでいるアパートメントの管理人のスラメットと瓜二つだった。スゲンに兄弟がいたかをマヤが尋ねると、元使用人はそれには答えず、スゲンはジャワ語でスラメット（安寧）という意味だと言う。

スゲン一家に憑りつかれていると察したマヤは急いで帰宅するが、アンディンの姿はない。隣の若い男の部屋の扉が開いており、中を見ると部屋のテレビにアンディンと同じ高校の制服を着た女子高生が強姦されている映像が映し出されている。マヤはアンディンを探しに行こうとしてマンションの階段を下りるが、いくら下がっても同じ階から出られない。

気が付くとマヤは夜の野原に出ていた。そこで野ざらしになっていた骸骨を見つける。傍らにあった財布に入っていた身分証明書[18] から、骸骨は行方不明になっていたウィスヌのものであることがわかる。

人間の姿をしたウィスヌが現れてマヤを襲う。妹を助けられなかったことを悔やんでいるウィスヌは、アンディンにラフマを重ねて見ており、マヤが学校に妹を迎えに行くのがいつも遅いと怒り、妹の世話を十分にしていないと責める。

マヤはスゲン一家の元使用人から聞いた話を思い出し、ラフマが病院で息を引き取ったときにウィスヌのことを責めておらず、ラフマは誰のことも恨んでいなかったと言ってウィスヌを落ち着かせようとするが、ウィスヌは聞く耳を持たない。マヤはウィスヌがすでに死んでいることを告げ、アンディンはラフマではなく、ラフマはすでに安寧のなかにおり、彼女の苦しみを長引かせないためにも恨みの気持ちを消すようにとウィスヌに訴える。

「助けて」というアンディンの声が聞こえ、マヤは白い布に包まれていたアンディンを見つけて助け出す。アダムが駆けつけ、マヤたちのアパートメントがなくなっていることを不思議に思ってマヤに尋ね、それによってマヤたちがいる野原はアパートメントがあった場所で、最初から空き地だったことがわかる。

最後の場面ではウィスヌがカメラを通じて観客を睨んでおり、恨みが消えずに残っていることがわかる。

17）マヤが訪ねたドゥクンは、営業時間を記した看板を出し、面会者に受付で整理番号を渡すなど、西洋医学の診療所と同じように近代的な呪術師である。

18）『ポチョン』はスゲン一家の死をジャカルタ暴動によるものと明示したことが公開不許可の理由とされたため、『ポチョン２』ではスゲン一家が死んだ日はジャカルタ暴動があった５月ではなく６月14日とされた。ただし、身分証明書を画面に映すことで、ジャカルタ暴動のきっかけとなったトリサクティ事件（治安当局が学生デモ隊に発砲して4人の学生が死亡した事件）の日付である5月12日をウィスヌの誕生日として示し、ジャカルタ暴動とスゲン一家を結び付けた。

ポチョンは怖くない

ポチョンはお化けで人を怖がらせるが、人に害を与える存在ではない。ポチョンが人を怖がらせるのは、地中に安置されているはずの遺体が生活空間に姿を現すことが気味悪く感じられるためである。『ポチョン２』で目の前にポチョンが突然現れるとマヤとアンディンは驚いて怖がるが、劇中で繰り返し語られるように、ポチョンは何かの警告のために現れるのであって、人間に悪さをするわけではない。劇中では、1984年に南ジャカルタのチランダックで海兵隊の武器倉庫が爆発して住民に死傷者が出たという実在の事件に関連して、爆発に先立って周辺住民の間でポチョンの目撃情報があったという都市伝説をマヤがWebサイトで見つけ、ポチョンは災いを知らせるために姿を現したとマヤが理解する場面がある。

『ポチョン』で無残な殺され方をしたラフマはポチョンになって現れるが、ラフマのポチョンは人に恨みを持っておらず、家族が殺された恨みを晴らそうとして人を襲うのはウィスヌである。『ポチョン２』ではラフマは姿を現さず、マヤとアンディンに災いをもたらすのはウィスヌの霊である。ウィスヌは人間の姿で現れ、ポチョンではない。

ラフマは２つの意味で弔われている。遺体が白い布で包まれて埋葬されたことに加え、残された人々がラフマの死を悼んでいるためである。スゲン一家の元使用人は、スゲン一家はとてもよい人々で、特にラフマは気立てのよい娘だったと語り、ラフマが亡くなったことを悼んでいる。一方ウィスヌについては、妹を大切にするよい兄だったが、一家が惨殺された後は精神を病み、行方知れずになったとだけ語っている。

『ポチョン２』の冒頭で、ウィスヌはルスタムの身内と思われる女性を襲い、ルスタムによって殺される。ウィスヌの骸骨は野ざらしになっており、遺体を清めて白い布で包む埋葬がなされず、ウィスヌは弔われていない。また、身分証明書が落ちていることは、遺体が誰にも発見されておらず、その死を知って悼む人がいないことを示している。

ウィスヌは身体的にも精神的にも弔われていないため、自分が死んでいることを認識していない様子である。ウィスヌが死んでいることを示すため、マヤはウィスヌの身分証明書を示す。身分証明書が他人の手に渡っているということはウィスヌが自分の身体を管理できない状況になっていることを示すとともに、野ざらしになっている骸骨が少なくともマヤとの関係においては身元が明らかになったことを示している。

ジャカルタ暴動と恨みの起源

『ポチョン』と『ポチョン２』の制作背景には1998年のジャカルタ暴動がある。政府の公式見解では、ジャカルタ暴動は、 経済危機によって生活が困窮した人々がショッピングモールや商店を襲って物資を略奪し、結果として死者が出たものであり、社会の経済状況が原因であるとされる。これに対し、『ポチョン』と『ポチョン２』の脚本を担当したモンティ･ティワは、ジャカルタ暴動は略奪や殺害に直接手を下していない人も含めて自分たちインドネシア社会が行ったことだと受け止め、次のように語っている。

> 1998年5月の暴動は私にとって当時も今もひどく恐ろしい出来事であり、良心の呵責に苦しんでいます。あの出来事は現実の「ホラー」でした。脚本で私が伝えようとしたのは、恐れるべきなのは幽霊ではなく、人間の方がもっと恐ろしいことがあるということです。
>
> [Barker 2019: 108]。

『ポチョン』では、暴動が拡散した背景に人々の誤解や行き違いがあったことが描かれている。その発端は使用人が雇用主の米穀を盗まなければならないほど経済的に困窮していることだが、個々の人間関係における誤解の積み重なりが人々を暴力と恨みの連鎖に駆り立てたとする解釈を示している。

このことに加えて、『ポチョン』と『ポチョン２』で人が襲われる理由として家族を守れなかったことへの恨みが挙げられていることに注目したい。ルスタムが暴徒をスゲン一家の住居兼商店に誘導したことも、ウィスヌがルスタムとその家族を襲ったことも、男が家族を守れなかったことに怒り悔やみ、そのような状況を作った相手への恨みを晴らそうとして行ったものと説明される。

殺されたラフマは誰も恨んでいないと言ったと告げられてもウィスヌが復讐を止めようとしなかったことは、ウィスヌが晴らしたかったのは、家族（女）

が犠牲になったことではなく、自分が家族（女）を守れない男にされたこと（したがって、男でないとされたこと）への恨みであることを意味している。

しかも、ウィスヌもルスタムも相手への恨みを晴らすために相手の家族の女性を暴力の犠牲にする。「女を守る」ことに失敗したことで「男らしさ」を否定されたことに恨んだ男が、その原因を作った男が守るべき女を襲うことで恨みを晴らそうとするという恨みと暴力の連鎖がこの作品のきわだった特徴である。その恨みに気付いて宥めるのは、学問を身につけることで両親の庇護なしに自立して生きていこうとする都会の女性であり、その試みは部分的に成功するが、「男らしさ」を傷つけられた男たちの霊はなお社会に漂っている。

3. 犠牲者は誰か――『スンデルボロンの伝説』

「スンデルボロン」とは、文字通り訳せば「穴の開いた娼婦」となり、体に穴が開いて内臓が剥き出しなった姿をしている。スンデルボロンは非業の死を遂げた妊婦のお化けで、インドネシアやマレーシアに広く見られる。マレーシアやシンガポールではポンティアナックの名前で呼ばれることが多い。インドネシアではジャワでスンデルボロンの名前で呼ばれていたが、スンデルボロンの映画を通じてジャワ以外でもスンデルボロンの名前が広く知られるようになった。スンデルボロンとクンティラナックは共通点が多いが、クンティラナックは子に執着する母性が強調されるのに対し、スンデルボロンは男を誑かす娼婦性が強調される傾向が見られる。

『スンデルボロンの伝説』――1965年の物語

『スンデルボロンの伝説』はハヌン・ブラマンティヨ監督の長編７作目の作品である。ハヌンは、外国帰りで会社を経営する都会の女性のほろ苦い恋愛を描いた初長編『ブウラニーズ』（Brownies、2004年）で2005年インドネシア映画祭の最優秀監督賞を受賞し、以後も都会を舞台に若者を主人公にした青春映画や恋愛映画で実績を積んできた[19]。ハヌンがホラー映画に挑戦したのが『紅いランタン』（Lentera Merah、2006年）と『スンデルボロンの伝説』で、どちらも1965年政変を取り上げている[20]。

ハヌンは学生時代から1965年政変に強い関心を持ち、今日のインドネシアで最も恐ろしいものは1965年の物語である考えており、プロデューサーの提案を受けてホラー映画で1965年を扱うことにしたという。『紅いランタン』では、大学生たちが40年前の死者の霊に悩まされるという学校の怪談ものの手法を用いて1965年のジャカルタの知識人に起きた事件の真相に迫った[21]。ジャワ農村を舞台にした『スンデルボロンの伝説』では、1988年の『ジャワ暦大晦日（原題はMalam Satu Suro）』以来、インドネシア映画で久しく描かれてこなかったスンデルボロンをスクリーンに蘇らせ、1965年のジャワ農村の様子を織り込んだ。

『スンデルボロンの伝説』では、楽団員のサルパが踊り子のイマと結婚し、２人とも仕事を辞めて、西ジャワのシンダンサリ村にあるダナパティが所有する茶農園で働いている。イマに目をつけたダナパティはサルパにスマトラ島での種の買い付けを命じ、サルパは新入りの自分に大きな仕事を任せてくれたダナパティに感謝して長期出張に出る。

ダナパティはイマを自宅に呼んで監禁し、強姦する。イマは別の部屋で監禁されていた女性とともに逃げ出すが、ダナパティの子を妊娠していることがわかる。イマは堕胎を望むが、村の医師は堕胎を拒否する。イスラム教の導師は、ふしだらな踊り子が不道徳な行いをして妊娠したと決めつけ、堕胎を希望するイマを批判する。イマはダナパティと結託している村長の指示を受けた男たちに襲われて殺され、スンデルボロンになる。

19）男子高校生３人組がクラスメートを見返すために文化祭で発表するためのビデオを制作をする『卒業日記』（Catatan Akhir Sekolah、2004年）、４人の独身青年の恋人を探しを描く『恋人募集中』（Jomblo、2006年）、西ジャワの田舎から憧れのロック歌手のコンサートを見るために単身ジャカルタに出てきたものの慣れない都会に苦労する女子高生の物語『君こそ唯一の人』（Kamulah Satu-satunya、2007年）、ジャカルタの下町で暮らす婦人警官志望のトムボーイであるマエの恋愛とそれを助けようとする幼馴染の三人組男子の騒動を描く『結婚する！』（2007年）がある。

20）1998年以降のインドネシア映画で1965年政変を取り上げた作品には、リリ・リザの『GIE』（2004年）がある。『GIE』ではインドネシア共産党系の女性団体ゲルワニ（インドネシア女性運動）の歌として知られていた「Genjer-Genjer」の劇中での楽曲使用が認められたが、『紅いランタン』では認められず、かわりに同時代の歌である「Puspa Dewi」が用いられている。

21）『紅いランタン』について詳しくは西（2021）の第４部第１章を参照。

イマが強殺された晩、村長や医師の前にスンデルボロンが姿を現す。翌朝、村人たちは、医師の遺体が高い木の枝に突き刺さった状態になっているのを発見する。村長の執務室では血まみれになった村長の遺体がねじれた格好でタイプライターの上に載っていた。尋常でない死にざまに村人たちは恐れおののく。葬儀に集まった人々の家でも、生暖かい風が吹いたり電灯が消えて窓や扉が突然閉まったりといった怪異現象に襲われる。しかし村人にスンデルボロンの姿は見えない。イマを襲って殺した男たちは夜ごと何ものかに襲われ、次々と不審な死を遂げる。

長期出張から帰宅したサルパの前にスンデルボロンが生前のイマの姿で現れる。サルパはイマが死んだことを知らず、スンデルボロンをイマだと思って迎える。サルパはスンデルボロンに導かれて、イマが男たちに襲われて殺された森に行く。イマは、沢で男たちに襲われ、崖から生きたまま投げ捨てられて死んだことをサルパに伝える。イマの死の真相を知ったサルパは、イマの遺品の赤い布を見つけ、イマが投げ捨てられた崖の上に墓標を立ててイマを弔う。スンデルボロンになったイマは「さようなら」の声を残してサルパの前から姿を消す。

ただし、村人たちはスンデルボロンの存在を知らないため[22]、非道な扱いを受けたイマの無念が夫以外の人々に知られることはない。村のイスラム寄宿塾の生徒が何ものかに殺され、遺体のそばに鎌が落ちていたことから、イスラム導師は不審死が農園労働者の仕業だと考える。村人たちは復讐心を募らせ、農園労働者を襲うために武器を持って農園に向かう。

同じ頃、農園では農園労働者が自分たちの権利を守るためにダナパティに対して決起しようとしていた。ダナパティは村長を使って農地の開墾を進めていたが、村長はダナパティから受けた賃金の一部しか農園労働者に支払わなかったため、農園労働者たちはダナパティの屋敷に集まって賃金の支払いを求めた。契約書がないので証拠がないというダナパティに対し、農園労働者の中にいた左派青年が契約書を作成する手伝いを名乗り出ると、ダナパティは農園労働者たちを屋敷から追い出し、部下に命じて左派青年を殺してしまう。ダナパティは農園労働者に見つかり、屋敷の外に引きずり出されて殺される。

村のイスラム寄宿塾の男たちが農園を襲い、農園労働者とイスラム寄宿塾の男たちの双方に多数の犠牲者を出す殺し合いになる。ダナパティが殺されたことでイマの無念は晴らされたはずだが、スンデルボロンは村にとどまり、依然として村の人々の様子をうかがっている。

国策映画への応答

1965年の「9月30日事件」を描いたインドネシア映画として最もよく知られているものは反共プロパガンダ映画の『インドネシア共産党9月30日運動の裏切り』(Pengkhianatan G30S/PKI、1983年。以下『裏切り』)である。『スンデルボロンの伝説』は『裏切り』を強く意識して作られている。

『裏切り』は、1965年9月30日から10月1日未明にかけてジャカルタで起こった陸軍の将校たちに対する拉致・殺害事件と、将校たちの遺体を発見して葬儀が営まれた10月5日までの様子をドキュドラマの手法で描く。将校たちが恫喝され拷問される様子や、興奮した若者たちが松明に照らされた広場で歌や踊りに興じている様子を、ホラー映画さながらの残酷さで繰り返し描き、拉致・殺害の非人道性を観客に印象付ける。

『裏切り』は物語の展開の点でもホラー映画仕立てになっている。将校たちが襲撃を受け、幼い子どもも撃たれる。拉致された将校たちがカーニバルのような狂乱の中で拷問され殺される。遺体は無残にも古井戸に投げ込まれて隠蔽される。これらの恐怖の時間の後に遺体が発掘され[23]、遺体が棺に納められて国葬される。葬儀で挨拶をするナスチオン将軍(当時)の「これ〔クーデター未遂〕は我々〔軍〕に対する中傷であり、中傷は殺人よりも悪しきことである」「恨んではならず、神命にしたがい真実と正義を打ち立てよう」という音声とともにエンドロールとなり、事件の黒幕とされたインドネシア共産党の解散や指導部の逮捕を報じる陸軍の新聞『ブリタ・ユダ』の切り抜きが示される。

ドキュメンタリー形式で事件の顛末を克明に描くことで『裏切り』が実行者とその背後にいるとされた

22)映像でもスンデルボロンが人を殺す様子は描かれない。スンデルボロンの姿を見て驚く人の姿が映り、場面が切り替わるとその人物の遺体が映される。

23)そこでスハルト将軍の「正しくない行動は必ず明らかにされる」という言葉が紹介される。

インドネシア共産党を糾弾する内容になっているのに対し、『スンデルボロンの伝説』は、9月30日事件に数か月さきだつ1964年11月から1965年2月までの3か月間について、首都ジャカルタから離れたジャワ農村を舞台にホラー映画の形式で物語を描き、『裏切り』の世界観に真っ向から挑戦している。

『スンデルボロンの伝説』は冒頭から『裏切り』を強く意識している。冒頭で当時の世相を示す新聞『ブリタ・ユダ』の切り抜きが何枚か示され、作中で描かれる事件の顛末を説明する次の言葉が字幕で挿入される。

> これは40年前の事件である。善人は悪人に、悪人は善人になった。中央部ジャワと西ジャワの州境にあるシンダンサリ村で、人々は他人の権利をやすやすと侵した。人々は互いに似通っており、誰もが自分こそ犠牲になったと感じ、ただ復讐することを願った。

『裏切り』の冒頭では、共産主義はインドネシア民族を脅かす危険な思想であること、今も社会の内部に姿を変えて潜んでいること、共産主義の再興を許さないために警戒すべきであることを呼びかける文言が、タイプライターの打刻音とともに文字で示される。ビートルズのレコードが燃やされる場面や、イスラム教徒が礼拝するモスクを若者が集団で襲撃する場面が挿入されたのち、1965年1月以降の新聞記事が何枚か紹介され、インドネシア共産党と傘下の団体がインドネシア各地で蛮行をふるっていることが示される。

『スンデルボロンの伝説』は、犠牲者の弔い方においても『裏切り』を強く意識している。『スンデルボロンの伝説』ではサルパが1人でイマの墓標を立てる。遺体は崖の下に投げ捨てられているため、それを見つけて埋葬することができないまま、形見の赤い布を墓標にかけることで弔いとする。村人たちはイマの弔いに加わっていない。旅支度をしているサルパは村に戻らないため、イマが村人たちによって弔われる機会はほぼ永遠に失われている。『裏切り』が犠牲者の国葬で終わるのに対し、『スンデルボロンの伝説』で犠牲者が夫のみによって弔われていることは、社会によって弔われるべきでありながら弔われないままになっている犠牲者が今なお存在するというハヌンの問題提起である。

イマの埋葬の後、場面は村はずれの沢で村の男性と若い女性が逢引きしているところに切り替わる。この沢はイマが男たちに襲われ、他にも何人かの女性の遺体が発見された場所である。イマのスンデルボロンは消え去ったが、スンデルボロンを生み出す構造は変わっておらず、新たなスンデルボロンが生まれる可能性が示唆されている。

顧みられない犠牲者たち

『スンデルボロンの伝説』でこの世のものでない存在になって人々を脅かすのは、非業の死を遂げた踊り子の女性たちである。主人公のイマだけでなく、同僚の踊り子たちも、農園主ダナパティに次々と拉致されて凌辱され、口封じのために殺される。ダナパティは踊り子を娼婦（スンデル）と呼び、男性との情交なしに生きていけないふしだらな存在と決めつけている。

この地域で踊り子は結婚式などの儀礼を盛り上げるのに欠かせない存在である。家族の女を守ることが男らしさを示すと考えられる社会では、女性は「妻」（夫の管理下にある女）か「娘」（夫の管理下に入る前に暫定的に父の管理下にある女）のいずれかであり、どちらにしろ男の管理下にあるものとして扱われる。結婚式は「娘」が「妻」になる儀礼であり、女性が決まった男性の管理下に入ったことを披露する機会である。そこでは、どの男性の管理下にもない「自由」な女性である踊り子が踊りを披露する。

踊り子の優美な踊りと美貌に村の男たちが魅了される一方で、どの男とも踊る踊り子は誰にも所有されていない女であり、それゆえに男は踊り子をどのように扱ってもよいという妄想が生まれる。この妄想は、男たちだけでなく、踊り子は自分たちの夫を誘惑して家庭を壊す迷惑な存在だと考える村の女たちによっても共有されている。

『スンデルボロンの伝説』には女が踊り子を生業とする事情を語る場面がある。結婚して踊り子を辞めたイマは、踊り子仲間だったテテに、美貌と聡明さのために誰からも好かれているテテは踊り子の才能を持っていると称賛する。これに対してテテは、それは才能ではなく役目だと言い、イマは深く愛してくれ

る人に出会えたので幸福だが、そうではない自分は生きていくために役目を果たしているだけだと答える。

踊り子たちは、ときに夫でない男に凌辱されて妊娠し、医師に堕胎または出産の助けを求めるが、医師は夫は誰かをまず尋ね、それに答えることができない女たちの苦境は助けない。イスラム導師も、夫以外の子を妊娠した女は不道徳者であるとして助けない。

スンデルボロンとなった女たちは、自分を破滅させた男たちの前に姿を現して命を奪う。しかし他の人にはスンデルボロンの姿は見えず、女たちが受けた非道な扱いは知られないままである。男たちは女たちの被害や無念に気付かないまま、それぞれが自分のことを被害者だと考え、不毛な殺し合いを重ねている。

4. 結び

『ポチョン』『ポチョン２』と『スンデルボロンの伝説』では、ポチョンとスンデルボロンという幽霊をインドネシア映画に蘇らせることによって、1965年と1998年における集団的暴力の経験の見直しが試みられている。『ポチョン』は、1998年のジャカルタ暴動の犠牲になった人々の物語を通して、「男らしさ」が否定されることへの恐怖が人々を暴力行為に突き動かす根底にある様子を浮き彫りにした。『スンデルボロンの伝説』は、1965年のジャワ農村で、互いが疑心暗鬼になって殺し合いに至るまでの過程をたどり、社会から蔑ろにされた女たちの恨みを放置する社会が内側から崩壊していく様子を描いた。

ホラー映画は、見る人々に恐怖を与えるために暴力的な行為や不可解な現象を描く。その結果、暴力に突き動かされる人々が抱える恐怖の所在を浮き彫りにし、それによって、社会が抱える課題をも浮き彫りにする。ポチョンやスンデルボロンの物語は、ポチョンやスンデルボロンが怖いのではなく、人々が抱く恐怖の起源を明らかにするために恐れられるのである。

参考文献

Barker, Thomas A. C. 2019. *Indonesian Cinema after the New Order: Going Mainstream*. Hong Kong: Hong Kong University Press.

Evieta Fadjar P. 2006. “Pocong Terkubur Sensor”. *Tempo*. (October 17, 2006).

西芳実 2021『夢みるインドネシア映画の挑戦』英明企画編集（近刊）。